

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

和装本

ケ 5

44

42

禮術兩翼之卷
流鑄馬

門ケ4
號44
卷42



大坪本流兩翼之卷

流ヤブハナ馬

春生軒スミノエ藤定易撰

柳流ヤブハナ馬者古來之騎射也天武天皇ノ御
宇ニ盛ニ行ル清和天皇ハ皇子ニテ御座シ
ケル時ヨリヲ馬ニ賢ク御歲十三ニテ流ヤブハナ馬シ召サレニツノ的ナカラ遊レケルトソ東
鑑六諸大名諸士ノ勤トレテ武士ノ第一
ニ為タル道也堅キヲ研キ危キヲ遁ルハ此

事ニ有ヘシ 諏訪太夫盛澄ト云者ハ平家ノ
囚人タリケレ共流鏑馬ノ藝ヲ窮テ 秀
卿朝臣ノ秘決シ 憐傳ルニ依テ 賴朝公其
四討シ 免レ 鶴岡神事ノ流鏑馬ヲ仰付ラ
ル折節馬恩クシテ 空地スルコト三度ニ及
ヌレトモ達者ニシテ 乘立レニワノ的共ニ射
取ヌレハ 賴朝公感ニ入本領塗堵スヘキノ
吉アリケルトソ今テハ 神社ノ执行トナリテ

天皇ニモ公方家ニモ此街弃レリ 神モ武国ニ跡
シ垂玉ヘハチ馬ノ武備ヲ以テ祭者ナルヘシ
又神代人代ノ神ニヨリテ其法式ニ差別アル
事也

流鏑馬々場殿

馬場殿ハ内屋形ニ構ユル時ハ百二十五間也
馬ノ翔場ニハ白砂シ敷也的ハニツ掛ル也
其形四半ノ如シノ的ノ間場本ヨリ才杖工

十六杖ニテ的ノ間ヲ杖五十間三ノ的ノ間ヲ杖
五十五間也

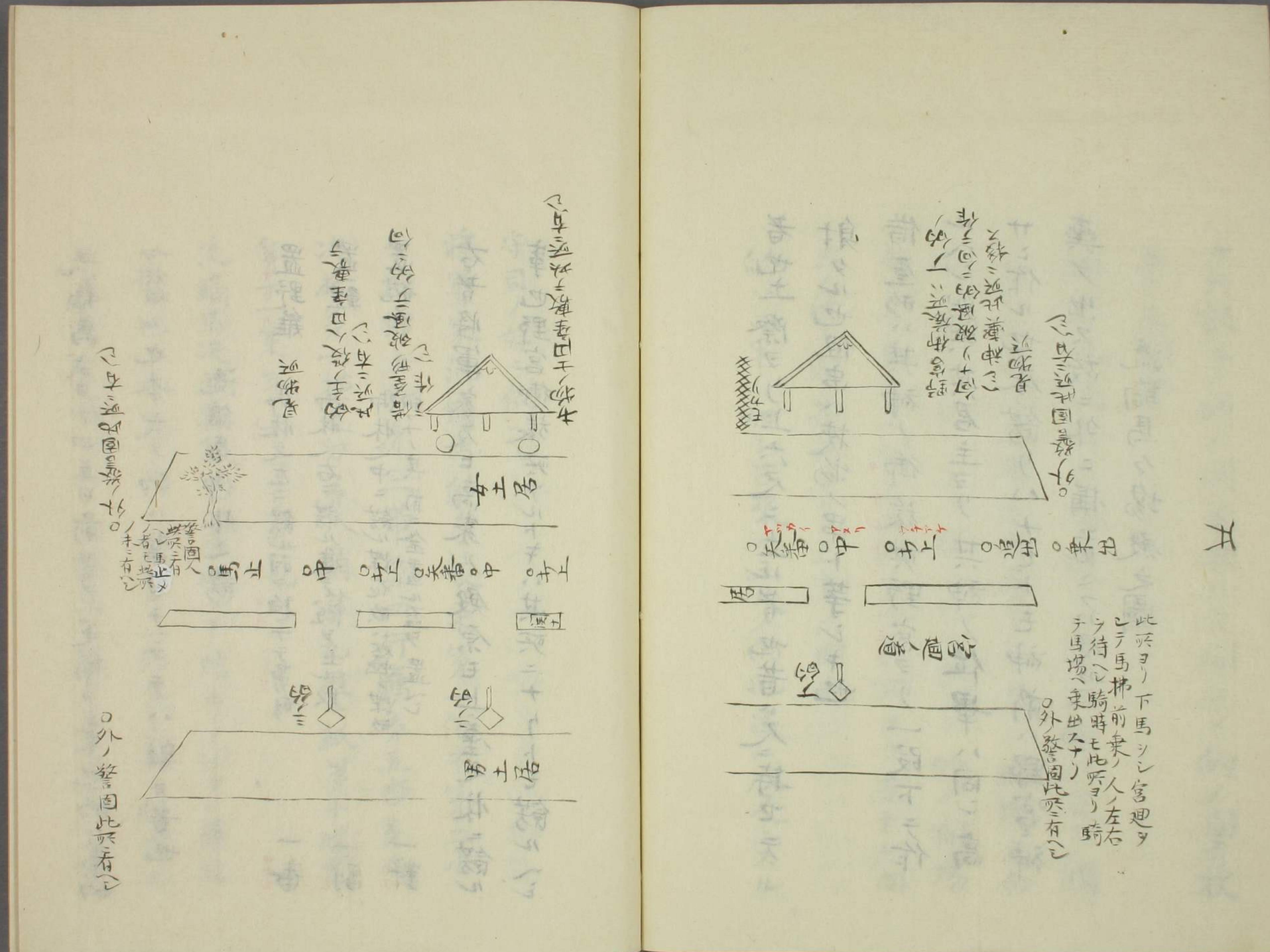
神前流镝馬々場殿ハ長サ四町八反ニ構
也男土居女土居閑土居アリ馬ノ翔場ニ白
砂シ敷也的ハ三ツ掛ル也口訣一ノ的ノ間場
本ヨリ五十五間ニテ的ノ間其所ヨリ五十六間
三ノ的ノ間其所ヨリ三十六間也

的ハ四半ノ如シ古來ハ三尺ノ的也串ハ八尺ニスル

者也土際ヨリ上六尺ニ立ル者也昔ハ人ニ持セテ
射タル也但串ハ挾物ノ串ト等シキ也

借屋形ハ其神ノ御旅^ヲト^ミ一役下テ作
ルヘシ然共其君主ヨリ其神ノ位畢ハ同ニ高
サニ作ル也床飭リハナセトモ神前ハ野宮ニ神
輿シ出ス故ニ外ニ構ユルニ不及也

流镝馬々場殿之圖



流鏑馬式日ノ四五日前ヨリ 足揃シ乗也的ハ幕的
シ射レ也本式ノ的ハ當日ナラテハ射ヌ者也

流鏑馬御牀之飭

置野雞

御牀之左ニ飭ル羽シ柏ナテ勇形

置鯉

御牀之右ニ飭ル進テ巖ヲ上ル形

置瓶子

御牀之中ニ飭ル蝶花形ハ蠶蝶形

一對

瓶子ノ其前ニ金畫ル盃ヲ置シ

右昔將軍家及ニ高家ノ殿原モ上座之牀ニ飭ル
事也野宮御旅死アルトキハ其死ニナクトモ飭ルヘシ

首
目
卷
第
二
十
九
回

守司ノ好ニ依ヘシ

將軍家流鏑馬射手裝束第一俗衣第二小
子游錦上衣第三帶第四行臙第五杏第六
决拾第七橫太刀第八扇第九疊紙第十綾笠
第十一策第十二弓矢也

流鏑馬決拾指環先一重廻シテ結手ノ甲ヨリ藥指
ハ掛ル也三呑タテ手ノ甲ニテ一結完三所ニ結留也
又決拾ヲ子儀ト六流鏑馬ニ限タルコト也

兔八幡太神ト三返

面足尊惶根草ト三返

鹿嶋大明神香取大明神ト三返

八百萬神達ト三返

右之神名シ唱エ六合祓ノ策シサテ 身堅レテ
其後弓矢取テ馬ニ騎也

前乗ノ人装束ハ布衣ノ出立ヲ用也 俗ニ場拂役
的立役人者烏帽子掛素袍袴ヲ着ス也 雜職

輦矢取者モ小素袍小袴烏帽子相ケスヘシ的持ノ下
部モ袖ナシサ掛ニ袴シ着スル也

流鏑馬ノ馬ハ七箇日前ヨリ湯洗シテ馬ヲ
清メ當日ニ至テ紺シ以テ額、髮シ結ヘレ 小
松原頭根、髮ハ蔓藻葉ニテ結也 鞍、倭鞍墨テ牛
舌ノ鐘サン連着歎シ懸レ也 手綱ハ足利深ツ用也

流鏑馬式

當日先前の立ノ役人雜職ヲ矢取ノ者の持

ノ者ニ行ニ引連テ馬場ニ至リ神前ニ向テ拜禮
シテ的ノ弓杖ヲ考テ段ニ立サレムヘン的角シ立
テ立串ニ挾也其勢土墜ヨリ上六尺ニカル也的主終
テ其身ハ屋形ノ落縁ノ際ニ四座敷テ君ノ渡御
シ侍也此役ニ弓馬ノ達人古實ノ士ヲ用レナリ
賴朝公熊谷次郎直實直實ハ源氏太
ナガミノ其内也ニ此役仰付ラ
レルトノ大追物撿見ニ茅レキ役也君流鏑馬ノ衆
龜ト矢沙汰シ知レ召レンカタニ近士ニ奉仕役也

調度懸ノ役ヰ物執役ハ將軍家ニ用ラル、又ナ
君渡御ノ節ヰ物執役ハ的立ノ役ノ向フニ四座
敷テ白眼合テ在ヘシ調度懸ノ役端縁ニ進ン
テ君ノ矢表ノ方ニ居スヘレ右三役之士者古實
ニ甲冑ヲ着シタル役ト佐々木加賀入道々統トヨタケノミツ
エレレト也又今様ニ素袍袴、鳥帽子掛シスル也略
儀也

將軍家渡御在テ正画ニ座レ玉フ時的立ノ某先

進ニテ其日ノ賀ヲ伸其後流鏑馬射サレメンヤ
ト伺テ則雜職シ以テ前乗ノ某ニ告レ夫ヨリ前
乗行例調テ押出レ神前ニ向テ拜礼レ御前
一禮シテ乗通ル其後ヨリ射子ノ面々引連シ
乗出レ神前御前ニテそシ卧弦ヲ内シテ鏑ヲ
外レ一禮シテ乗通ナリ鳥居ノ際火此方ニテ下
馬シテ宮廻ラナレ又馬ニ騎テ前乗ノ法シ守ル
前乗翔塲ヘ乗出レ神前御前ニテ一禮シテ乗

通り馬塲末標下ニテ馬ヲ扣ヘ下立テ見物火止
也前乗見物火至リ其馬シタルシ相圖トシ
テ一番ノ射テ馬ヲ出レ塲ヘカ入テ十間ばかり
走ラセ夫ヨリ追出スヘレ矢ハチニ初ヨリ取添
手綱ヲ豊ニ持テ馬進シテ塲ヲ見入翔行時
手綱人曲リシ鞍ノ内へ入テ弓ヲキ上テ的ニ眼シ
付矢比ニ至テ放スヘレ中ト矢声ヲ發レテ又
ニ的ニ心ソ付矢審シテ弓上矢比ニ放ス也三

ノ的ハ馬平ニ成テ翔行カユニキ上ヨリ能持テ
矢比ニ放スヘニワノ矢射テハ標下ニテ馬シ品
能止テ策ヲ揚ラ戈ノ外へ出ル也次クノ射手皆
是ニ順スヘシロ傳

矢業ハキ上ヨリ真中矢比少前ニ射テ達シチライ
チト云矢比至テ射テ放スシ聞チト云矢比ソ
越シテ矢ヲ放スシ萎スホニチト云然トモ狩倉ノ外
之萎チシハ押戻子ト唱タルカ宜シキ也又矢シ拔
ナレ

出スニ武田・笠端シ切ト云テ矢シ上サニ出ス也
小笠原ニ大ノ二日ノ如クサキ工直ニ矢シ出ス也
將軍家ニハ宜シキニ頃シテ何レトモ定タルコト
ナレ

流鏑馬三之心得秀郷朝臣ノ秘次内也

沛艾ハイカイノ馬ナラバ追出レ尖成ニヘア的リ大事
ト心得ヘレ

細馬ニレテ悍イサム宜馬ハ平ナルカユニ射能也キ上

矢比シ大事ト心得ヘシ

沛艾ナキ馬ハ追出レタ豊ニ末強ク翔テ終ノ
ミノ的シ大事ト心得ヘシ

馬曲リテ左ヘ添ハテ以テ目ノ上ヨリ扇見スアホリ
右ヘ添ハ矢シ以テ目ノ上ヨリ扇見スヘシ馬見入
翔テハ曲ルヲナシ揚リ躍躍コトモナキ者也唯
追出シヲ大事ト乗ヘレ声シ始ニレテ勢強ク
鎧ヲ蹴テ追コトナカレ物逢思レク又ハ鎧シ端外

シテ落馬スル事アル者也シテ又目立議タシ
馬強折レ懸モキケハ先抱テ其折ル方ヘ折付止シテ
レ左ヘ折レ行ハ六ヶ敷馬ナリシテ流下テ折付
ヘシロ傳馬止ラハ射直ニ及ハス馬場末ヘ乗通ヘレ
然ニ已一人流鏑馬ノ射手ナラハ馬幾度空地
スルトモ押直レ射タルカ宜シキナリ
不堪フカノ射手ニ鎧ニテ乘スルコト秀卿
朝臣ノ秘決ノ内也

初声之事

口訣

矢声之事 狩倉ノ矢声を取サル也

口訣

馬居止ルニ身奇止アリ拘ヘ止アリ流止アリ切
止アリ口决若シ馬止ラス標^ニ下シ破リ行ハ警
固ノ人抑止ヘシ

流鎬馬ニ用テ矢之事

子ハ陰陽子也ニテ藤ノ子也ハ張^{アシ}ノ内鎬ノ長^{アシ}三
フセ目ハ二目也厚木^{ホウキ}ニテ作ル也又目無鎬矢シ

用ルト云説モアリ

流鎬馬神事ニ用行騰之事

神事 流鎬馬ニハ老若ニ限ラス夏毛ノ行騰^{ナツイ}
履ヘレ例式ヨリ短ク詰テヤヘレ折目ノ祐^{スガ}ヲ直
カ達テ切ル也コ傳

行騰ノ長サ三尺六寸腰ノ背筋通ヨリ白毛ニテ
也此尺ハ我チノ定也本尺トス則圖ニ記ス

神事行騰之圖

此直達ノ長ナトス但シ腰ニヨリラカシ
是故ニヒ同シ小腰ト三人ノ腰ニ隨リカセ

のは幕目歩長ナタル分悉皆平

此紫シ白色ト云

一箇單

一箇單

此通ツ中腰トラ唯腰トハカリモテ也

此灰シ黑直達テ
切セニ傳

神事行騰例式ヨリ少レ短シ幕目止ナヘタトヒ
幕目シ腰ニ指スニ付ヘレ左皮ノ緒シ幕目止メ、
通スヘシ袴ヲハ繪ノ如ク折目シ四寸違テ切ナリ

此行騰シ復事ハ神事ニ限タル事也夏モシ用袴ヲ
直達テ切ハカリノ儀也此外切ヤウ例式ニ替ル事
ナシ

當流宗師

日本武尊

迎來流

貞純親王

鹿鳴流

八幡太郎

義家

大坪流

湯山入道中原

玄性

大坪式部太輔

廣秀

村上加賀守

永幸

齋藤備前守

国忠

齋藤安藝守好玄

齋藤備後守忠吉

齋藤南宮乃長遠

丹羽住僧了慶坊

齋藤求馬助辰光

齋藤主税定易

通鑑

卷之二

通鑑

